

東京五輪などの追い風生かそう

沿岸被災地3県知事

観光復興へのメッセー

岩手県 達増拓也知事

東日本大震災から9年が経過する。震災 県民一丸となって、東日本大震災津波からの復興に、全国の皆様から多く、復興の取り組みを進め、支援や励ましをいただき、心から感謝申し上げます。



特別寄稿

田端浩・観光庁長官

東日本大震災から9年、ビッグ・パラリンピック、東京大会が開催され、復興や風評払拭のために、観光の復興が重要な役割を果たしている。このため、政府は2016年、東北6県の外国人延べ宿泊者数が100万7910人泊となり、前年比で達成した。この達成は、大震災から9年、東北6県の外国人延べ宿泊者数が100万7910人泊となり、前年比で達成した。この達成は、大震災から9年、東北6県の外国人延べ宿泊者数が100万7910人泊となり、前年比で達成した。



官民挙げて復興キャンペーン 地域と連携し観光振興を

観光庁では、このよなことを踏まえ、東北の観光振興に全力で取り組む。観光庁では、このよなことを踏まえ、東北の観光振興に全力で取り組む。観光庁では、このよなことを踏まえ、東北の観光振興に全力で取り組む。



パネル討論では東北の今後についてパネリストが持論を展開

仙台で東北観光シンポ

日観振

日本観光振興協会は2月10日、仙台市内のホテルで「東北観光シンポジウム」を開催し、官民を挙げて東北の観光振興を図る。この機会を逃さず、今年3月14日には、JR東北日本を始める関係者のご協力により、JR常磐線沿線、宮城の太平洋側、全線が鉄道でつながれることになりました。JR常磐線沿線、宮城の太平洋側、全線が鉄道でつながれることになりました。

宮城県 村井嘉浩知事

インバウンド誘致を力強く 東北DCで新しい魅力訴求



宮城県は、国内外の皆様の温かいご支援やご協力のおかげで、復興に向けた歩みを進めてまいりました。皆様のご支援に心から感謝申し上げます。

講演やパネル討論 300人を超える参加者

長、坂巻伸昭(東武トシツアス社長)、阪本未実子(JR東日本常務執行役員)、牧野友衛(トリップアドバイザー社長)の各氏、コーディネーターは日観振の久保田輝副理事長。

東日本大震災から10年の節目となる2021年は東北観光の今後を左右する大きなイベントがある。4月9日に東北6県で開催される大型観光企画「東北デスティネーションキャンペーン(DC)」は、観光振興の巡るたび、出会う旅、東北。東北DCのキャッチコピーとロゴマーク。



巡るたび、出会う旅。東北
2021.4.1～9.30

これまでとこれからの県旅組の取り組み

宮城県ホテル旅館生活衛生同業組合 佐藤勘三郎氏



未曾有の震災を経験し、被災地は復興を遂げ、観光客の増加を感じています。震災から10年、観光客の増加を感じています。震災から10年、観光客の増加を感じています。震災から10年、観光客の増加を感じています。

岩手県ホテル旅館生活衛生同業組合 佐藤康氏



また、震災から9年が経過する。震災当時の組合員38施設中94施設に建物被害が発生し、沿岸地区においては、深刻な影響を及ぼした。また、直接被災地から人口流出に歯止めがかけられず、県内の宿泊施設は、岩手県生活衛生営業指導センター事業として「復興支援ガイドブック」を刊行し、その中に掲載された観光振興の取組が、地域や個性を生かした特色のある宿泊施設をサポートしている。

福島県 内堀雅雄知事



福島県では、観光客の入り込みが震災前の水準に回復するまで、着実に観光復興を進めてまいりました。震災から10年の節目に、宮城の魅力を体感し、お越しください。震災から10年の節目に、宮城の魅力を体感し、お越しください。

外国人客に県の魅力をPR ホープツーリズム推進に力

外国人客に県の魅力をPR、ホープツーリズム推進に力。外国人客に県の魅力をPR、ホープツーリズム推進に力。外国人客に県の魅力をPR、ホープツーリズム推進に力。

観光の力で復興の足取り確かに

全国から400人超える参加者

ホテル観洋で 世界に通用する方策学ぶ



阿部実行委員長



基調講演した徳山氏

3月11日で9年を迎える方策を学んだ。東日本大震災の教訓を世界に向けて語り継ぐ「全国被災地語り部シンポジウムin東北」(阿部隆二郎実行委員長)が2月24、25日、宮城県南三陸町の南三陸ホテル観洋で開かれた。震災の風化を防ぐため若者への教訓の伝承の在り方や津波の爪痕を残す震災遺構などの重要性を伝えようとする昨年の熊本に続き5回目の開催となる。

県内外で遭遇した震災体験者や伝承活動に携わる関係者ら約420人が参加。関心の高さを裏付けた。講演やパネルディスカッションを通じ、語り部が「KATARIBE」として世界に通用する方策を学んだ。

被災地語り部シンポジウムin東北



小池、達増両知事が参加したオープニングセレモニー(2月16日、東京国際フォーラム)

東日本大震災の被災地を支援するイベント「復興関係者が危機感を抱いていた。そのため強豪校のチーム「BLUE TOKYO」を結成。国内外のさまざまな舞台で公演し、メディアにも登場するなど人気を集めるようになった。

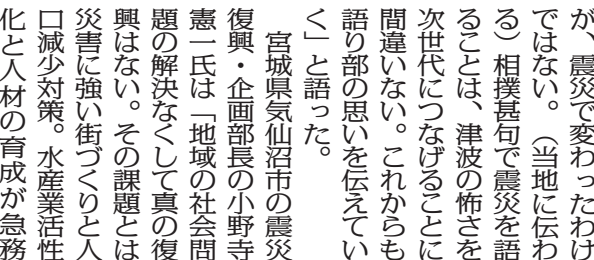
将来のダンスチーム入りを目指す子とも向け、ダンス組織も立ち上げ、高校、大学を含めたプロを頂点とする競技人口の拡大を目指す。東北4県を代表して若手県代表の選手が、競技の成功と被災地の完全復興を期す。被災地の完全復興を期す。被災地の完全復興を期す。

スポーツの力で復興

東京で被災地支援イベント

東京都と東北4県

岩手県「釜石シーウェイブスFC」の事例発表



釜石市では、語り部の意義について討論した。兵庫県淡路市の北淡震災記念公園総支配人の米山正幸氏は「阪神淡路大震災は、一挙に仕事が止まり、映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。一部は映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。一部は映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。

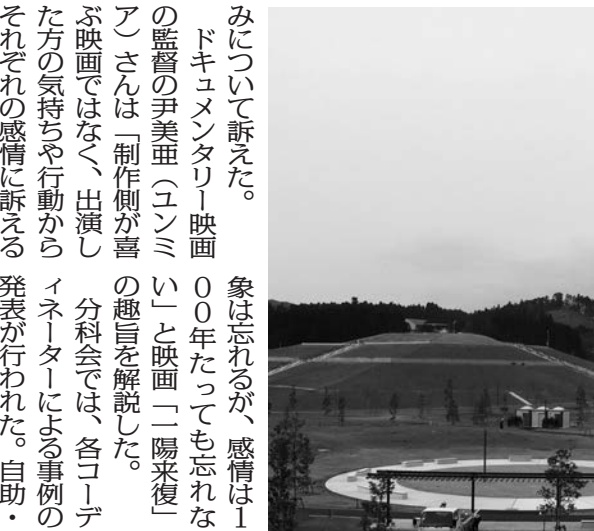
釜石市では、語り部の意義について討論した。兵庫県淡路市の北淡震災記念公園総支配人の米山正幸氏は「阪神淡路大震災は、一挙に仕事が止まり、映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。一部は映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。一部は映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。



釜石市では、語り部の意義について討論した。兵庫県淡路市の北淡震災記念公園総支配人の米山正幸氏は「阪神淡路大震災は、一挙に仕事が止まり、映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。一部は映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。一部は映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。

釜石市では、語り部の意義について討論した。兵庫県淡路市の北淡震災記念公園総支配人の米山正幸氏は「阪神淡路大震災は、一挙に仕事が止まり、映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。一部は映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。一部は映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。

東日本大震災から9年



釜石市では、語り部の意義について討論した。兵庫県淡路市の北淡震災記念公園総支配人の米山正幸氏は「阪神淡路大震災は、一挙に仕事が止まり、映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。一部は映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。一部は映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。

釜石市では、語り部の意義について討論した。兵庫県淡路市の北淡震災記念公園総支配人の米山正幸氏は「阪神淡路大震災は、一挙に仕事が止まり、映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。一部は映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。一部は映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。

釜石市では、語り部の意義について討論した。兵庫県淡路市の北淡震災記念公園総支配人の米山正幸氏は「阪神淡路大震災は、一挙に仕事が止まり、映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。一部は映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。一部は映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。

釜石市では、語り部の意義について討論した。兵庫県淡路市の北淡震災記念公園総支配人の米山正幸氏は「阪神淡路大震災は、一挙に仕事が止まり、映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。一部は映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。一部は映像や写真が東日本大震災と比べて少ない。

全国被災地語り部 南三陸宣言

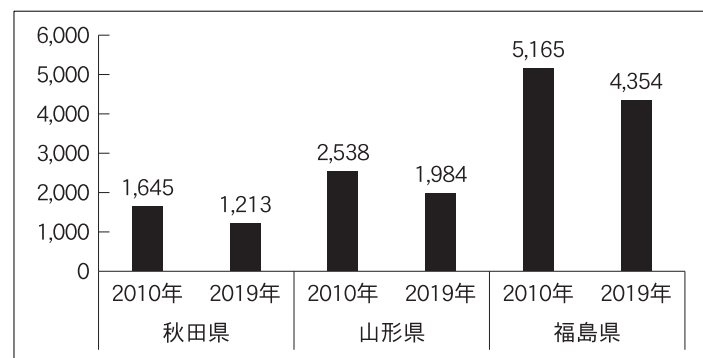
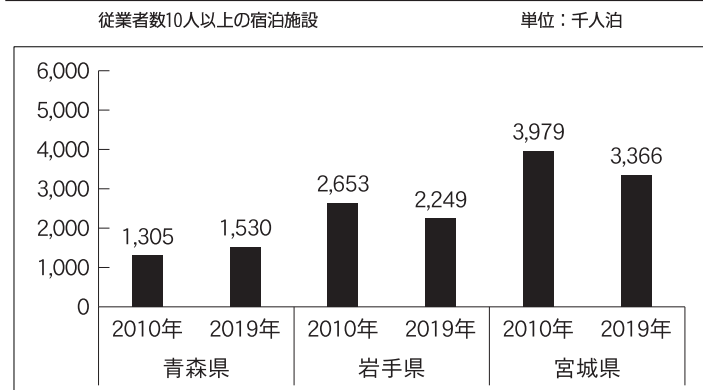
私たち被災地語り部(KATARIBE)は、10年目を迎える東日本大震災で、宮城県南三陸町に国内外から集い、2月24日、25日の2日間、取り組みと課題、震災遺構、記憶と記録、語り部の未来について語り合いました。

閉会にあたり、「誰もが語り部」として、シンポジウムで得た知見を広く発信することを宣言します。

- 1、災害による試練を乗り越え、地域、歴史を学ぶことで、知識を知恵に変え、時代・社会にあわせて、言葉、映像、写真、歌、美術、文学、多言語、webなどアナログとデジタルを組み合わせた発信方法を工夫し多様な形で伝承します。
- 2、聞き手に伝わるよう、世代を超えて取り組み、縦と横のネットワークを繋げていきます。
- 3、命を守るため、教訓を被災地と被災地、そして未災地と未来に伝え、次世代や第二の語り部の育成に努めます。

これまで5回のシンポジウムで広がってきたゆるやかなネットワークを一層展開し、全国被災地語り部シンポジウムを継続していきます。

第5回全国被災地語り部シンポジウムin東北 2020年2月25日



「観光目的の宿泊者が50%以上の施設の延べ宿泊者数

施設所在地	延べ宿泊者数※	2010年比増減(%)	観光目的の宿泊者が50%以上の施設	2010年比増減(%)	観光目的の宿泊者が50%未満の施設	2010年比増減(%)
青森県	3,788,000	7.0	1,529,850	17.2	2,258,140	1.0
岩手県	5,227,050	22.6	2,248,510	▲15.3	2,978,550	85.1
宮城県	8,963,890	23.8	3,365,980	▲15.4	5,597,920	71.8
秋田県	2,948,470	▲5.9	1,212,700	▲26.3	1,734,580	16.7
山形県	4,264,080	0.2	1,984,250	▲21.8	2,279,840	32.7
福島県	8,684,480	11.0	4,354,120	▲15.7	4,329,930	63.1
東北6県	33,875,980	12.0	14,695,410	▲15.0	19,178,950	47.9
全国計	466,882,160	33.8	241,471,410	31.2	224,514,590	36.6

2019年の延べ宿泊者数 観光主体の宿泊施設は震災前との比較で減少

観光庁が2月28日に発表した宿泊旅行統計調査の2019年(速報値)によると、東北観光の状況を見てみよう。統計上、東日本大震災の発生以前(2010年)の延べ宿泊者数と比較可能な延べ宿泊者数は、東北6県の延べ宿泊者数は33,875,980人で、10年比12.0%増となった。県別では、秋田県を除く5県が震災前の水準を上回っている。ただし、ビジネス客などより観光客の宿泊が多い観光旅館・ホテルなど「観光目的の宿泊者が50%以上の施設」の延べ宿泊者数は、東北6県で10年比15.0%減の14,695,410人、9万5千人泊だった。半面、「観光目的の宿泊者が50%未満の施設」の延べ宿泊者数は、同47.9%増の19,178,950人、19万1千789人泊だった。

東北観光データ 観光庁 宿泊旅行統計調査

2019年延べ宿泊者数(速報値) 震災前(2010年)との比較

施設所在地	延べ宿泊者数※	2010年比増減(%)	観光目的の宿泊者が50%以上の施設	2010年比増減(%)	観光目的の宿泊者が50%未満の施設	2010年比増減(%)
青森県	3,788,000	7.0	1,529,850	17.2	2,258,140	1.0
岩手県	5,227,050	22.6	2,248,510	▲15.3	2,978,550	85.1
宮城県	8,963,890	23.8	3,365,980	▲15.4	5,597,920	71.8
秋田県	2,948,470	▲5.9	1,212,700	▲26.3	1,734,580	16.7
山形県	4,264,080	0.2	1,984,250	▲21.8	2,279,840	32.7
福島県	8,684,480	11.0	4,354,120	▲15.7	4,329,930	63.1
東北6県	33,875,980	12.0	14,695,410	▲15.0	19,178,950	47.9
全国計	466,882,160	33.8	241,471,410	31.2	224,514,590	36.6